



DIGITAL HEARTS HDGS.

2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）



2022年2月8日

上場会社名 株式会社デジタルハーツホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 3676 URL https://www.digitalhearts-hd.com/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 CEO (氏名) 二宮 康真
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長 CFO (氏名) 筑紫 敏矢 (TEL) 03(3373)0081
 四半期報告書提出予定日 2022年2月9日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績 (2021年4月1日～2021年12月31日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	21,246	30.2	2,123	79.5	2,192	76.0	1,363	71.6
2021年3月期第3四半期	16,313	4.1	1,183	11.0	1,245	18.0	794	21.7

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 1,557百万円 (98.5%) 2021年3月期第3四半期 784百万円 (20.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	63.05	-
2021年3月期第3四半期	36.82	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	17,001	7,588	40.2
2021年3月期	14,338	6,314	39.7

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 6,832百万円 2021年3月期 5,691百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	-	7.00	-	7.00	14.00
2022年3月期	-	7.50	-	-	-
2022年3月期 (予想)	-	-	-	7.50	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年3月期の連結業績予想 (2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	29,000	27.9	2,700	41.5	2,800	41.7	1,800	84.7	83.24

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
新規 1社 （社名）株式会社アイデンティティー 除外 1社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、四半期決算短信（添付資料）の10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年3月期3Q	23,890,800株	2021年3月期	23,890,800株
② 期末自己株式数	2022年3月期3Q	2,260,031株	2021年3月期	2,277,431株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年3月期3Q	21,622,324株	2021年3月期3Q	21,573,056株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）の5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
- ・四半期決算補足説明資料については、四半期決算短信開示後速やかにTDnet及び当社ホームページに掲載致します。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

	2021年3月期 第3四半期 (千円)	2022年3月期 第3四半期 (千円)	増減率 (%)
売上高	16,313,872	21,246,042	30.2
営業利益	1,183,165	2,123,415	79.5
経常利益	1,245,704	2,192,295	76.0
親会社株主に帰属する四半期純利益	794,398	1,363,214	71.6

当社グループを取り巻くデジタル関連市場においては、IoT(Internet of Things)の進展やDX(デジタルトランスフォーメーション)の加速等を背景に、コンテンツやサービスの多様化が急速に進んでおります。その一方、各企業においては、その開発及び運用を支えるIT人材が慢性的に不足していることから、ソフトウェアの開発、テスト、保守・運用、セキュリティ等の支援サービスを提供している当社グループの収益機会は、今後も引き続き拡大するものと見込んでおります。

このような状況のもと、当社グループでは、注力事業と位置付けるエンタープライズ事業において、これまで構築してきた人材・技術・顧客基盤をより強固なものへと進化させることで、引き続き高い成長を目指しております。当第3四半期連結累計期間においては、これまで実施してきたエンタープライズ事業拡大に向けた人材・技術に対する先行投資の効果が発現し、各サービスの売上が大幅に伸長するとともに、投資を継続しながらも、安定的に利益を確保できる体質への転換を図ることができました。また、今後のさらなる成長をより確実なものへとするため、主要子会社の一事業部門であるエンタープライズ事業本部をスピニアウトし、株式会社AGEST(以下、「AGEST」)を2022年4月に組成するとともに、エンタープライズ事業を行っている国内企業の一部をAGESTに順次統合するグループ組織再編を実施することを決定致しました。さらに、先端品質テクノロジーエンジニアが自然と集まるような魅力的な集団の形成を目指し、AGESTの新オフィスへの移転を含む職場環境の整備や、国内外のQA(Quality Assurance)等のエキスパートや大学・研究機関と連携したR&Dセンターの新設、QA技術を体系的に学ぶことができる社内育成組織の整備といった準備についても着実に進めて参りました。

一方、主力のエンターテインメント事業では、国内デバッグサービスにおいてコンソールゲーム向けの大型タイトル案件を複数獲得したことやテストセンターであるLab.の効率運営等により、増収増益を達成致しました。また、エンターテインメント事業における成長の柱と位置付けるグローバルサービスにおいては、2021年3月にM&Aにより子会社化したDIGITAL HEARTS CROSS Marketing and Solutions Limited(旧:Metaps Entertainment Limited、以下、「DIGITAL HEARTS CROSS」)とのシナジーの早期発現に向けグループ連携を強化して参りました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、エンタープライズ事業・エンターテインメント事業ともに高い成長を達成するとともに、M&Aの効果もあり、21,246,042千円(前年同四半期比30.2%増)と2桁増収を達成致しました。これに伴い利益面においても、営業利益は2,123,415千円(前年同四半期比79.5%増)、経常利益は2,192,295千円(前年同四半期比76.0%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,363,214千円(前年同四半期比71.6%増)と大幅な増益を達成致しました。

セグメント別の経営成績は、以下のとおりであります。

	2021年3月期 第3四半期 (千円)	2022年3月期 第3四半期 (千円)	増減率 (%)
売上高	16,313,872	21,246,042	30.2
エンタープライズ事業	4,775,079	7,937,561	66.2
エンターテインメント事業	11,538,793	13,308,480	15.3
調整額	—	—	—
営業利益	1,183,165	2,123,415	79.5
エンタープライズ事業	36,048	403,195	1,018.5
エンターテインメント事業	2,153,544	2,884,885	34.0
調整額	△1,006,427	△1,164,665	—

なお、各セグメントの売上高については、セグメント間の内部売上高又は振替高を含めて記載しており、セグメント利益は営業利益ベースとなっております。

① エンタープライズ事業

当セグメントでは、主に、エンタープライズシステムの不具合を検出するシステムテストサービス、システムの受託開発や保守・運用、セキュリティ検査・監視の提供を行うITサービス・セキュリティサービスを提供しております。

エンタープライズ事業におけるサービス別の売上高は以下のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告するサービス区分を変更しており、当第3四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいて実施しております。

	2021年3月期 第3四半期 (千円)	2022年3月期 第3四半期 (千円)	増減率 (%)
システムテスト	2,503,060	3,395,679	35.7
ITサービス・セキュリティ	2,272,018	4,541,881	99.9
エンタープライズ事業 合計	4,775,079	7,937,561	66.2

(i) システムテスト

システムテストサービスでは、主に、エンタープライズシステムの不具合を検出するサービスを提供しております。

当第3四半期連結累計期間においては、様々な自動化ツールを活用したテストソリューションの提案をフックに、当社グループが得意とするマニュアルテストや脆弱性診断といった品質向上に関する多様なサービスを顧客ニーズに合わせ柔軟に提案することで、新規顧客開拓及び既存顧客との取引拡大を実現致しました。また、事業拡大に必要不可欠なエンジニアに対する継続的な投資を行うとともに、グループ連携を強化することで、ベトナム拠点のエンジニアやフリーランスエンジニア等の活用本格化に向けた取り組みを推進致しました。さらに、米国子会社のLOGIGEAR CORPORATIONでは、ERPやCRM領域におけるテスト事業の拡大に注力しており、2021年3月に子会社化した米国のMK Partners, Inc.との連携を強化することで、Salesforceの導入・運用支援に関する新規案件獲得に努めて参りました。

その結果、当第3四半期連結累計期間のシステムテストサービスの売上高は、3,395,679千円(前年同四半期比35.7%増)となりました。

(ii) ITサービス・セキュリティ

ITサービス・セキュリティサービスでは、システムの受託開発や保守・運用支援サービス、セキュリティ検査・監視サービス等を提供しております。

当第3四半期連結累計期間は、セキュリティサービスにおいて、リモートワークの拡大や東京2020オリンピック・パラリンピックの開催等を背景にセキュリティ検査・監視の需要が増加したこと等から、前年同四半期比約2倍の成長を実現致しました。また、2021年6月に株式会社アイデンティティを子会社化したことに伴い、エンジニア派遣型のシステム開発、保守・運用支援が大幅に伸張致しました。

その結果、当第3四半期連結累計期間のITサービス・セキュリティサービスの売上高は、全サービスで2桁増収を達成し、4,541,881千円(前年同四半期比99.9%増)となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のエンタープライズ事業の売上高は、7,937,561千円(前年同四半期比66.2%増)、セグメント利益は、403,195千円(前年同四半期比1,018.5%増)と大幅な増収増益を達成致しました。

② エンターテインメント事業

当セグメントでは、主に、コンソールゲーム、モバイルゲーム、パチンコ・パチスロ等の不具合を検出する国内デバッグサービス、ゲームの翻訳・LQA(※)や2D/3Dグラフィック制作、マーケティング支援等を行うグローバル及びその他サービスを提供しております。

※Linguistic Quality Assuranceの略で、翻訳されたテキストや構成の品質を確認すること。

エンターテインメント事業におけるサービス別の売上高は以下のとおりであります。

	2021年3月期 第3四半期 (千円)	2022年3月期 第3四半期 (千円)	増減率 (%)
国内デバッグ	8,481,943	9,111,548	7.4
グローバル及びその他	3,056,850	4,196,932	37.3
エンターテインメント事業 合計	11,538,793	13,308,480	15.3

(i) 国内デバッグ

国内デバッグサービスでは、主に、国内のコンソールゲーム、モバイルゲーム、パチンコ・パチスロ等を対象に、ソフトウェアの不具合をユーザー目線で検出し顧客企業に報告するサービスを提供しております。

当第3四半期連結累計期間は、巣ごもり需要の増加等を背景に、コンソールゲーム市場を中心に新規タイトルの開発が活発化致しました。当社グループでは、このような市場環境のもと、積極的な営業活動やサービス品質の向上・改善に向けた継続的な取り組みを推進することで、当期発売予定の新規大型タイトル案件を多数獲得致しました。また、テストセンターであるLab.の業務改革やコスト構造の見直し等を強化することで、収益性の改善を図って参りました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の国内デバッグサービスの売上高は、9,111,548千円(前年同四半期比7.4%増)となりました。

(ii) グローバル及びその他

グローバル及びその他サービスでは、ゲームタイトルを海外展開する際に必要な翻訳・LQAやマーケティング支援等を行うグローバルサービスのほか、ゲームの受託開発・2D/3Dグラフィック制作を行うクリエイティブサービス、総合ゲーム情報サイト「4Gamer.net」の運営等を行うメディアサービスを主に提供しております。

当第3四半期連結累計期間は、グローバル・クリエイティブ・メディアすべてのサービスで2桁増収を達成致しました。特にグローバルサービスでは、中国をはじめとする海外ゲームメーカーによるコンテンツのグローバル展開が活発化していることもあり、2021年3月に子会社化したDIGITAL HEARTS CROSSと連携し、翻訳・LQAからマーケティング支援までワンストップでのサービス提供を強化することで、新規案件獲得に努めて参りました。

その結果、当第3四半期連結累計期間のグローバル及びその他サービスの売上高は、M&Aの効果もあり、4,196,932千円(前年同四半期比37.3%増)となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のエンターテインメント事業の売上高は、13,308,480千円(前年同四半期比15.3%増)、セグメント利益は2,884,885千円(前年同四半期比34.0%増)と増収増益を達成致しました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産の残高は10,658,755千円となり、前連結会計年度末における流動資産9,744,997千円に対し、913,757千円の増加(前期比9.4%増)となりました。

これは、主として有価証券が121,674千円減少した一方、現金及び預金が669,631千円及び受取手形、売掛金及び契約資産が274,977千円増加したことによるものであります。

固定資産の残高は6,342,343千円となり、前連結会計年度末における固定資産4,593,794千円に対し、1,748,548千円の増加(前期比38.1%増)となりました。

これは、主として、のれんが1,477,969千円及び投資有価証券が92,688千円増加したことによるものであります。

(負債)

流動負債の残高は9,354,484千円となり、前連結会計年度末における流動負債7,904,503千円に対し、1,449,981千円の増加(前期比18.3%増)となりました。

これは、主として短期借入金が677,814千円、未払費用が311,005千円及びその他の流動負債が372,697千円増加したことによるものであります。

固定負債の残高は58,521千円となり、前連結会計年度末における固定負債119,536千円に対し、61,015千円の減少(前期比51.0%減)となりました。

これは、主として長期借入金63,893千円減少したことによるものであります。

(純資産)

純資産の残高は7,588,092千円となり、前連結会計年度末における純資産6,314,752千円に対し、1,273,340千円の増加(前期比20.2%増)となりました。

これは、主として、親会社株主に帰属する四半期純利益1,363,214千円、非支配株主に帰属する四半期純利益等による非支配株主持分が145,613千円の増加及び配当金の支払額313,525千円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の受注動向等の業績を踏まえ、2021年5月11日に公表致しました通期の連結業績予想を修正致しました。なお、当該予想数値の修正に関する事項は、本日(2022年2月8日)公表の「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,076,396	5,746,028
受取手形及び売掛金	4,097,817	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	4,372,794
有価証券	155,250	33,576
棚卸資産	44,143	57,999
未収還付法人税等	2,478	44,179
その他	430,074	470,220
貸倒引当金	△61,162	△66,044
流動資産合計	9,744,997	10,658,755
固定資産		
有形固定資産	598,606	621,309
無形固定資産		
のれん	2,467,888	3,945,857
その他	202,830	279,784
無形固定資産合計	2,670,718	4,225,641
投資その他の資産		
投資有価証券	191,529	284,217
その他	1,142,587	1,219,355
貸倒引当金	△9,648	△8,181
投資その他の資産合計	1,324,469	1,495,391
固定資産合計	4,593,794	6,342,343
資産合計	14,338,792	17,001,098
負債の部		
流動負債		
短期借入金	4,728,935	5,406,750
未払費用	950,828	1,261,834
未払法人税等	453,655	429,089
賞与引当金	53,893	147,949
役員賞与引当金	—	18,974
その他	1,717,190	2,089,887
流動負債合計	7,904,503	9,354,484
固定負債		
長期借入金	63,893	—
退職給付に係る負債	41,923	42,406
その他	13,719	16,115
固定負債合計	119,536	58,521
負債合計	8,024,039	9,413,005

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	300,686	300,686
資本剰余金	331,509	338,190
利益剰余金	7,575,673	8,626,295
自己株式	△2,565,164	△2,545,696
株主資本合計	5,642,705	6,719,476
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	581	492
為替換算調整勘定	47,983	112,391
その他の包括利益累計額合計	48,564	112,883
新株予約権	13,363	—
非支配株主持分	610,119	755,733
純資産合計	6,314,752	7,588,092
負債純資産合計	14,338,792	17,001,098

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年 4月 1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年 4月 1日 至 2021年12月31日)
売上高	16,313,872	21,246,042
売上原価	11,821,974	15,141,985
売上総利益	4,491,898	6,104,056
販売費及び一般管理費	3,308,732	3,980,640
営業利益	1,183,165	2,123,415
営業外収益		
受取利息	1,853	2,136
為替差益	—	10,420
投資事業組合運用益	—	12,321
助成金収入	51,422	44,728
その他	19,572	12,923
営業外収益合計	72,847	82,529
営業外費用		
支払利息	4,552	7,330
為替差損	3,476	—
支払手数料	238	124
持分法による投資損失	431	4,687
その他	1,609	1,507
営業外費用合計	10,308	13,649
経常利益	1,245,704	2,192,295
特別利益		
固定資産売却益	—	1,233
助成金収入	51,286	—
債務免除益	—	66,979
新株予約権戻入益	—	13,363
特別利益合計	51,286	81,576
特別損失		
固定資産除却損	13,538	32,270
投資有価証券売却損	2,689	—
減損損失	—	9,333
事務所移転費用	39,856	12,059
本社移転費用	—	2,454
感染症に関する費用	55,254	—
組織再編関連費用	—	20,594
特別損失合計	111,338	76,711
税金等調整前四半期純利益	1,185,653	2,197,159
法人税、住民税及び事業税	335,687	675,106
法人税等調整額	49,073	29,178
法人税等合計	384,761	704,284
四半期純利益	800,892	1,492,875
非支配株主に帰属する四半期純利益	6,493	129,660
親会社株主に帰属する四半期純利益	794,398	1,363,214

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年 4月 1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年 4月 1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	800,892	1,492,875
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	158	△89
為替換算調整勘定	△16,445	64,408
その他の包括利益合計	△16,286	64,318
四半期包括利益	784,605	1,557,194
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	788,703	1,452,303
非支配株主に係る四半期包括利益	△4,097	104,890

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、履行義務が一定の期間にわたる受託契約について、従来、受託業務完了時点で収益を認識していましたが、期間がごく短い受託契約を除き、履行義務を充足するにつれて、収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用していません。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、会計処理を行い、その累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の損益及び利益剰余金の当期首残高に与える影響は軽微であります。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載していません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用しております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。